

映画監督が「映画と時代」を語るシンポジウム第8弾

映画監督と時代

2020年 4月4日(土) 13:15開場 13:30開演

会場：文京シビックセンターB1多目的室

東京メトロ丸の内線・南北線 後楽園駅(5出入口)直結
都営地下鉄三田線・大江戸線 春日駅(文京シビックセンター連絡口)直結
JR中央線・総武線 水道橋駅(東口)徒歩約10分

主催：自由と生命をまもる映画監督の会

《入場無料》 ただし資料代500円いただきます

上映
作品 「誰がために憲法はある」

(2019年 日本 71分)

監督：井上淳一 「憲法くん」作：松元ヒロ 音楽：PANTA 製作：馬奈木徹太郎

出演：渡辺美佐子 高田敏江 寺田路恵 大原ますみ 岩本多代 日色ともゑ
長内美那子 柳川慶子 山口果林 大橋芳枝



日本国憲法を擬人化した一人語り『憲法くん』を渡辺美佐子が演じるパートと、ベテラン女優たちが続ける原爆朗読劇の公演を追ったパートで構成されたドキュメンタリー。
日本国憲法の原点を見つめ直す。

シンポジウム 「映画監督と時代」

パネリスト

井上淳一 (脚本家・映画監督) 安田純平 (ジャーナリスト) 菱山南帆子 (市民運動家)

永田浩三 (武蔵大学教授・元NHKプロデューサー) 馬奈木徹太郎 (弁護士)

ジャン・ユンカーマン (映画監督) 司会：小中和哉 (映画監督)

映画監督が「映画と時代」を語る

シンポジウム第8弾

映画監督は時代とどのように向き合い、自作の映画にどのように反映させてきたのか？ そして現在、時代とどのように関わり映画を作るべきなのか？ 自由と生命をまもる映画監督の会が、2015年以降続けてきた、映画上映&シンポジウム「映画監督と時代」の第8弾として、井上淳一監督の「誰がために憲法はある」の上映&シンポジウムを行います。憲法は変えてはいけないのか？ 日本はどんな国を目指すべきなのか？ 映画を入口に、今日日本人が真剣に考えなければいけない問題について、話し合います。

《タイムテーブル》 4月4日(土)

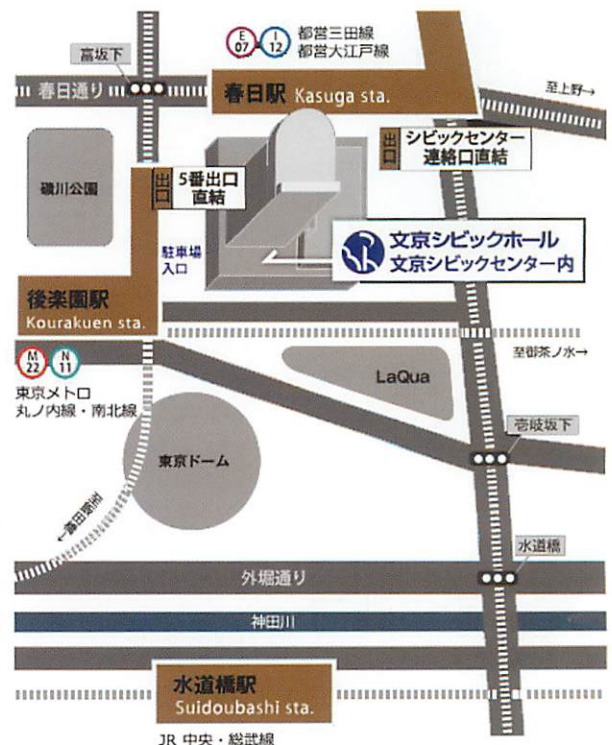
13:15 開場
13:30~主催者挨拶 仲倉重郎
13:35~「誰がために憲法はある」上映
14:45~休憩(10分)
14:55~シンポジウム「映画監督と時代」
16:40 終了予定

自由と生命をまもる映画監督の会 第8回イベント実行委員

飯島敏宏 池島ゆたか 遠藤一平 小中和哉 小林要 小平裕 佐藤重直
ジャン・ユンカーマン 杉浦弘子 旦雄二 仲倉重郎 蜂須賀健太郎
藤山顕一郎 深作健太 松井良彦 松原信吾 宮崎信恵 山本洋子

会場：文京シビックセンター B1多目的室

東京都文京区春日1-16-21
東京メトロ丸の内線・南北線
後楽園駅(5出入口)直結
都営地下鉄三田線・大江戸線
春日駅(文京シビックセンター連絡口)直結
JR中央線・総武線 水道橋駅(東口)徒歩約10分



連絡先 仲倉：090-2648-6978
asimov2@mtg.biglobe.ne.jp